

令和3年度

「県・市町村青少年

相談担当者研修会

・東毛地区」

アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和3年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会・東毛地区 アンケート結果

日時 令和3年7月29日(木)

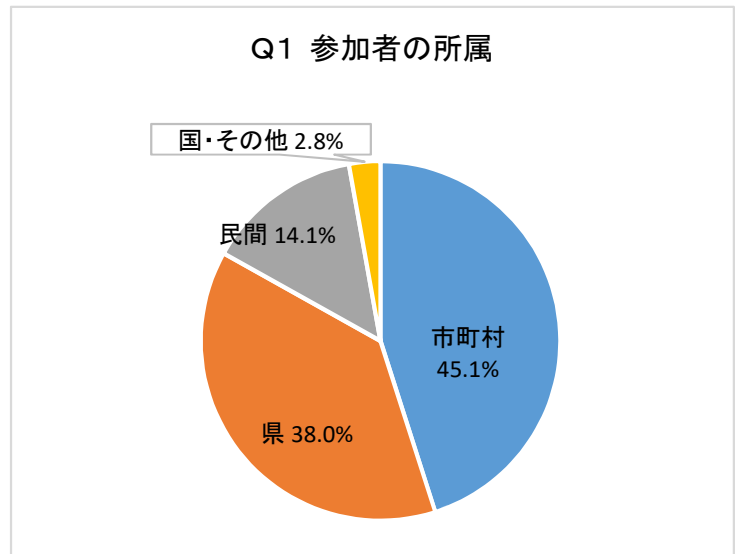
13:00~15:30

会場 コスメ・ニスト千代田町プラザ

- 研修参加者 73 人
- 回答者 71 人
- 回答率 97.3 %

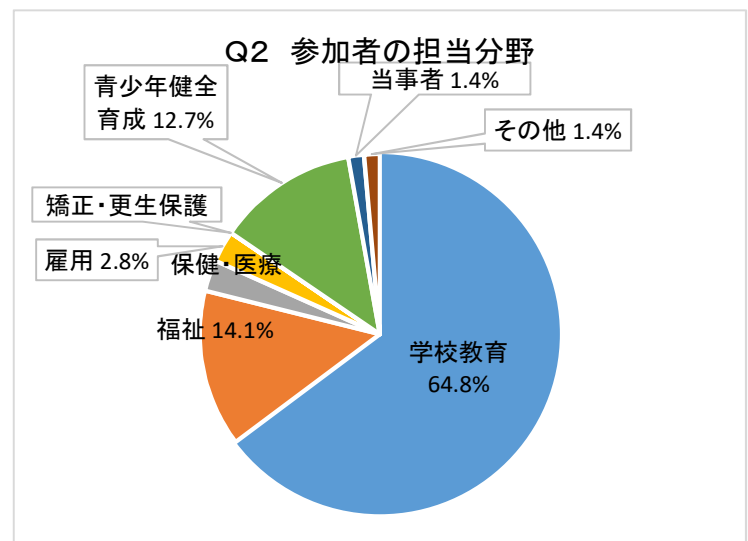
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	32	45.1%
県	27	38.0%
民間	10	14.1%
国・その他	2	2.8%
合計	71	



Q2 回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	46	64.8%
福祉	10	14.1%
保健・医療	2	2.8%
雇用	2	2.8%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	9	12.7%
当事者	1	1.4%
その他	1	1.4%
合計	71	



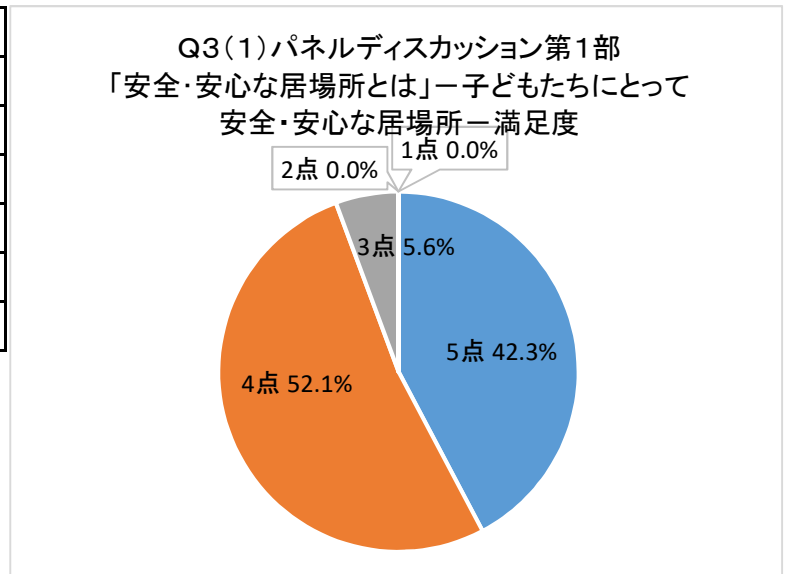
Q3(1) パネルディスカッション第1部「安全・安心な居場所とは」—子どもたちにとって安全・安心な居場所—

報告者 県立館林商工高校 養護教諭 平田 亜紀子氏

助言者 みどりクリニック院長 医学博士 鈴木 基司氏

進行役 石川 京子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	30	42.3%
	4点	37	52.1%
	3点	4	5.6%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		71	



○意見・感想等

1	「不安な気持ち、不快な気持ちは言っていない」「言えば聞いてくれる人がいる」と思えることが、安心、安全につながるという鈴木Drの言葉が印象に残りました。また、館林商工の先生の日常の実践では、声かけ、見える保健室など、気づかされることが多く、参考にさせていただきたいと思います。
2	「子どもと関わる時、一人二役はできない」という言葉が心に残りました。だからこそ、チームとして子どもに関わることが大切ということを再認識できました。
3	医療との連携の大切さを感じた。
4	まず受容することが大切なのかと感じました。
5	日頃、自分が保健室運営で気を付けていこうと思っている話がたくさん出てきて、これからもひき続き実践していこうと思いました。
6	前回の研修でも出ましたが、「言語化できない生徒が多い」ことを痛感しました。生徒たちが安心して話せる場づくりが大切。私も20歳の男性が気持ちを言葉で表せるようになるまで半年間じっくり向き合いましたので、とても共感しました。また半年間は私自身も他の人に支援の不安などを相談し、支えてもらいながらその男性の支援を続けてきましたので、まさに「ONE TEAM！」が大切だと感じました。2つの役割を分けることが重要とのことで、今の支援の現場でどのような形にできるか考えていきたいと思います。
7	今の高校における現状をお聞きして、日頃の学校現場の中でも、子どもたちの居場所作りをすることが大切だと感じました。また、職員一人ひとりの意識も大切な要素の一つであると思いました。
8	平田先生のお話を聞きながら「言葉にできない、話が通じない」など、「ああわかるなあ・・・」と思いました。日頃のコミュニケーション、情報収集を私も大切にしています。生徒対応はチーム戦ですよ。進学先で大切に対応していただけることを知ることで安心しました。
9	鈴木先生の受け止める人、促す人との役割を分けていくという点が参考になりました。嫌なことを言ってもいい、聞いてくれる人がいることを子どもたちに伝えていきたいと思いました。
10	医療、養護教諭の立場から話が聞けて良かったです。
11	具体的な事例を踏まえて話をさせていただいたので分かりやすかったです。先生同士、また外部との連携、子どもたちが何でも言える環境作りが必要なんだと感じました。
12	「安全・安心な場所」とは、いろいろな教師が見守っている環境があること、不快なこと、納得できないことを言ってもいいということ、それを聞いてくれる人がいること、ということが分かった。

13	養護の先生の存在は大きく、ありがたいものだなあとと思います。本校の場合も同様です。小・中学校の教員が感じている悩みを、高等学校の先生方も抱えているように思った。医療とのつながり、様々なサポート、連携の仕方によって良くなることもあるが、体制が上手くいかない、悪化することもあるのかなと感じた。子どもの心に余裕を持って寄り添うには、教員は忙し過ぎます。分かってはいるが…というのが本音です。そんな中で必死にやろうとしています。
14	小さい情報でも共有することの大切さ、受け止め役と促す役がいて、甘すぎる厳しすぎる両方大切。「言えば聞いてくれる人がいる」聞くけど何でもOKではない、出来ることを一緒に考えていくために様々な人との関わりが必要だと思った。
15	子どもの居場所づくりは大事だと思う。
16	養護教諭の先生から現状について伺うことができました。なかなか知ることにはできない生徒のリアルを知り、少し驚きもありましたが、貴重なお話でした。子どもたちが抱える問題に日々向き合い支援している姿や、積極的に話に行く姿を参考に、事業などに生かしていきたいです。
17	自分の思いを言える相手がいることの大切さ、それを保障すること、そして連携していくことの大切さを再認識しました。
18	医療と教育の連携の方法について知りたいと思っていたので大変勉強になりました。
19	この人なら自分の気持ちを伝えてもいいんだという関係性を築いていながら、同時に適応に向けて促す役もやってきて、一人二役は大変でした。一人二役ではなく役割分担し、連携していきたいと思いました。
20	同じ養護教諭として、ご活躍している様子がよく分かりました。生徒の会話、日頃からコミュニケーションを取っていること、職員間との情報交換など、工夫されて非常によく対応していただいている姿が素晴らしいと思います。私も生徒、職員とコミュニケーションを図って、より良い方向に進めるよう努力したいと思いました。
21	まず、商工の先生方の支援のきめ細かさに感心させられました。いつもは小中学生を相手にしていますが、その子どもたちが高校生になると、こんな感じなのかなあと想像しながらお話を伺っていました。私の担当する子どもにも、不安症かなという子がいて、どのように支援していけば良いのかずっと悩んでいましたが、鈴木先生の具体的な支援方法は大変参考になりました。また平田先生のような「単語でもいい」という声かけも試してみようと思いました。早速、2学期実践してみたいと思います。
22	小学校4年生の担任をしています。中高生でも同じような問題を抱えていて驚きました。もっと成長しているかと思っていたからです。家庭環境を変えることは難しいと思いますが、子どもの意識を受け取り、変える手助けはできるかなと感じました。
23	館林商工の平田先生の発表がとても印象的で、かつ分かりやすく良かったです。資料の文字が大きく、キーワードも適切で素晴らしいものでした。
24	安全・安心な居場所づくりは、今の学校機関で求められていると再認識できた。これからも生徒の話を受け入れて根気強く関わっていきたいと思う。
25	館林商工高校の内部の連携、特に体育科との連携には驚きました。体育の先生は父性でバシ！と厳しく接するイメージだったので、おそらく平田先生の人柄や教育観が同調されて連携できているだろうと思いました。
26	生徒の幼さ、言語化できない部分など、現場で感じること、共感できることが多かったです。学校が「生徒が全てを吐き出せる場所」であること、また「いろいろな教員と関わる場所」であるために、情報の発信、収集を行っていききたいです。教員歴一年ですが、とても勉強になりました。
27	学校、保護者、医療機関、カウンセラー等、それぞれが連携して情報交換や事例検討をしながら、各生徒の関わり方を考え、行動に起こしていくことが大切であると感じました。また、生徒本人が安心して相談しやすい、話しやすい居場所を提供してあげることも必要であると感じました。信頼され安心してもらえるような声かけ、対応を心がけていきたいと思います。
28	子どもたちにとって安全・安心な場を作っていくとは大切であり、言い分を聞いたり、他の機関との連携も必要であることがよくわかりました。
29	平田先生の発表内容の全てに共感しました。また、鈴木先生の受け止める人と適応を促す人の両方が必要で同じ人がやることは不可能だという意見に「やっぱりそうだね！」と納得でした。今後を生かしていきたいと思います。
30	学校の取組の紹介については勇気をいただきました。鈴木先生のご意見により新たな視点から考えることができました。子どもが不安や納得できないことを言葉にできるように、それをしっかり受け止め、エンパワメントできるようにしたいと思った。
31	生徒と保護者の変化、恐ろしい気がします。
32	高校生の今の実態をわかりやすく伝えていただき何が必要かを考えることができた。

33	自分の気持ちを言ってもいいことを伝え、それをきちんと受け止めて聞いてあげられる養護教諭になり、生徒にとって保健室が安心できる居場所になるようにしていきたいと思いました。また、自分から出向いて情報収集をしたり、日頃からのやりとりを伝えることを大切にしていきたいです。
34	学校・医学の立場から興味深い内容を伝えていただきました。ただ、どの学校も正しい知識のある養護の先生がいる訳ではないところが気になります。
35	自分の気持ちは言っていんだと思える関わりや言えば聞いてくれる人がいるという体勢づくりを意識していきたいと思いました。受け止め役と促し役との連携も大切だと感じました。
36	館林商工の事例がとても身近な内容だったので共感しながら聞いていた。教員だが、これからも養護教諭や周りの教員と連携をとりながら生徒をサポートしたいと思う。
37	子どもたちが相談しやすい環境をつくり、話を聞いてあげる大人がたくさんいることが大切だと思った。
38	子どもたちの話(困り感、悩み)をじっくり聞くことの大切さ、その時間の確保の難しさを感じています。
39	子どもたちにとって安全・安心な居場所は、話をすれば聞いてくれる信頼感のある人(場所)であることがわかった。
40	言語化+適応(はどめ)の2役が必要ということに改めて大切だと感じた。
41	思いを受け止めてもらえる場、言語化して聞いてもらえる人のいることが安心な居場所となることを改めて強く感じる。それを今後、どう工夫していくのかが自分自身の課題である。
42	学校で生徒が安心して話せる環境を作る工夫や努力がされており、居場所づくりができていると思った。また、家族や本人が気になるところを発信したり、医療機関と連携することで、本人への負荷を考慮しながら本人の成長を促すことができるのだと勉強になった。
43	小・中学生の不登校を適応指導教室で関わっているが、それがそのまま高校生になる大変さを知った。先生方が大変。
44	子どもたちを取り巻く環境の変化のスピードはとても早い。そのスピードについていくことができない。又はできていて、我々大人がついていけないのか。いずれにしても皆で考えていきたい。
45	心、体の安全・安心な居場所の確保が必要、そんな学校を作っていきたい。

Q3(2) パネルディスカッション 第2部「本人の学びを支援する」ー学びの意欲をどのように支援していくかー

報告者 まなびバ！シリウス(フリースクール) 安楽岡 優子氏

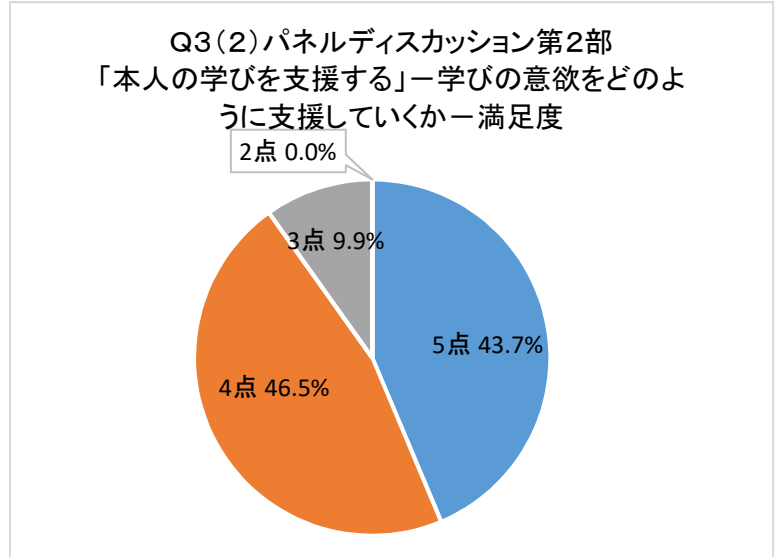
発言者 県立太田フレックス高校通信制 教頭 亀井 絹子氏

群馬県私立通信制高校連絡協議会 会長 清水 洋氏

(クラーク記念国際高等学校 前橋校 校長)

進行役 石川 京子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	31	43.7%
	4点	33	46.5%
	3点	7	9.9%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		71	



○意見・感想等

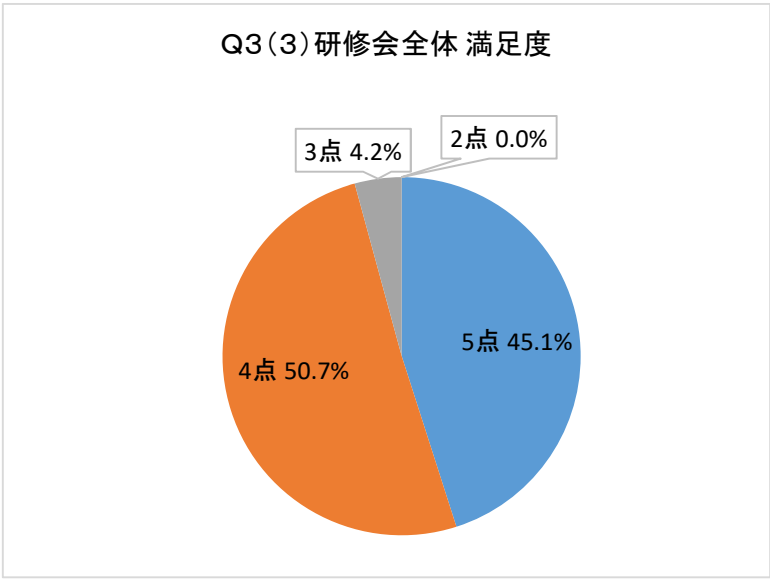
1	本校の生徒で不登校になった生徒は、多くは割と早めに通信制やサポート校に転学していきます。できれば入学した学校で卒業させたいというのは一昔前の話で、今はいろいろな、その子にあった選択肢があると実感しています。そのような現場の方のお話が聞けて、学校を離れた生徒のことを思い出しました。このように指導していただけてありがたいです。
2	シリウスでの活動内容がよくわかった。学びについて考えた。
3	「そもそも”学びとは”」ドキッとしました。多様化の社会で、学校の存在意義は何なのかな〜?と、考えるよい機会になりました。
4	フリースクールの実態がよくわかった。
5	自らも学ぶ、そして相手を尊重する、うなづく大切さを改めて感じました。
6	子どもたちが、自分がどうなりたいか、どうありたいか、夢などをしっかりイメージを持ち、今必要なことを考えること。そしてそれらを言える、向き合えるようになることの大切さを感じました。それらを安心して行動に移せる気持ちが話せるようになるため、支援する側がしっかり寄り添うことが大切だと思いました。
7	学びの意欲や学び方は人それぞれ。”みんな違ってみんないいのだ”と、改めて考えさせられました。
8	安楽岡さんの「学びって何！」という言葉がとても印象に残りました。学校では世の中に対応できる子(第一部の鈴木Drの言葉より)に育てがちです。また、そこを目指してしまうように思います。本当に学んで欲しいことって、何だろうと考えてしまいました。クラーク高校の校長先生の言葉、そうだなあと思いました。
9	フリースクールの実態を知ることができ、本当に学ぶことを改めて考えることができました。
10	もともと持っていた「やりたいこと」を復活できるように支援をしていきたい。
11	子どもを子どもだと思わずに接することが必要だと思いました。子どもたちが考えていることを否定せず、違う考え方もあるのだと認めることが大切だと思いました。
12	シリウスのことを知りませんでした(不勉強で申し訳ありません)。学ぶとはどのようなことなのか、「主体的学びとは?」いろいろ考えさせられました。学校は様々なことを考え、子どもたちのために様々なことをしています。そのことも是非、分かっていたきたいと思います。後半で「対話」についてお話がありました。自分は果たして?と、真剣に考えてしまいました。うまく答えを出すことができませんでしたので、次回の宿題にしたいと思います。

13	出発点を好きなもの、共におもしろい話をしたい、大切なことだと思う。自分が選ぶ、自分で決めることを支援するために、これからも日々学んでいきたい。生徒には好きなことやものが、直接勉強することにつながらなくても、自分で学びたいと思った時に学べる場所があることを伝えてあげたいと思った。
14	子どもをできない、だめだと決めつけてはいけない。本当の学びの意欲を大事にしたい。
15	普通高校や小中学校以外の形態を知り、子どもたちの「学びたい、やりたい」を尊重する場があるのは、魅力的だなと思いました。
16	学びを支えること、人として対等であり、自分も学びに向かうことが大切であると感じました。
17	うなずきながら、笑顔で、パネリストの3人の考えをまとめている石川先生のお姿がとても印象に残りました。とても勉強になりました。
18	子どもたちはもともと、「学びたがっていた、やっていた」はず、という話を聞いて、「ハッ」としました。現在の学校で主体的に学ぶ機会が少なくなっている気がするので、少しずつ探し、生徒に投げかけていきたいと思います。また、対話の大切さを改めて痛感しました。安心して子どもたちが学べるよう、環境も関係性も整えていきたいと思います。
19	(1)、(2)共通の感想です。そして感謝です。”ふだん、気づきにくこと”にたくさん気づかせていただいたと思います。ありがとうございました。気づかせていただいたこと(今日のこの会場の空気)を大事にして、忘れずに生徒たち(人)と関わっていききたいと思います。
20	シリウスに興味があったので、今日はお話を聞くことができ良かったです。本人の学びを支援するには「やらせる」のではなく、自分から学びたいと思えるものを尊重することが大切だと思いました。小学校低学年の子が勉強に対して拒否することに、いつも「なんで」という思いがありましたが、一人の人間として対等に向き合って、対話をしていってみたいと思います。
21	シリウスさんのお話を聞いてよかったです。このような場で校外の機関と近づけたことが嬉しかったです。やはりフリースクールで、どのような活動をしているのか知らなかったのも、子どもたちにとって、とてもありがたい環境になっているのだなと知ることができました。うちの学校の子どももお世話になっているので”大変、安心”しました。今後も連携していただきたいと思います。
22	シリウスの安楽岡さんの報告はとてもわかりやすかったです。クラークの清水先生のお話も具体的で思いもよく伝わってきました。
23	まなびバ！シリウスの安楽岡さんの「ベクトルを自分に向けて考える」という言葉がとても印象的でした。生徒だけでなく、自分自身でも学び続けなければと思った。
24	まなびバ！シリウスの日々の取組やポリシー、子どもの強みをフルに伸ばす内容等、特に理解できました。
25	「何がしたいかわからない」という生徒が非常に多いです。選択肢を与えたり、常に手が届く位置で合図を見逃さないことは、日頃の対話があつてのことだと感じました。その対話が信頼関係につながっていくのだと感じました。一人ひとりの関係の作り方は違ってくると思うため、それぞれの輝く瞬間を作っていけるように、本日の意識・考え方を実践していきたいです。
26	生徒と寄り添いながら、各生徒が描く理想の自分像を尊重し、各生徒の伸びしろを最大限にまで引き出してあげられるよう、今できること、できたことを自信につなげることや、実現に向けて必要なこと、それに向けての見通しを提示させていくことも大切であると感じます。まずは、生徒本人がやりたい事を話してもらえようような関係性を築いていけるよう、取り組んでいきたいと思います。
27	対等に対話することが、子どもとの関わりでは重要であると改めて感じました。相手のことを考えて関わっていききたいと思います。
28	普段フリースクールの様子を聞く機会がないので、今日はとても良い経験となりました。学校ではなかなか難しい支援をフリースクールではできる部分が大きいと感じました。学びとはなんだろう、本当にそうだよねと感じます。
29	安楽岡さんの取組には、様々考えさせられました。子どもの成長を支えるために何をしたらよいか、何ができるのか、改めて、そして真剣に考えていきたいと思われました。
30	教育現場の苦悩にびっくりしました。想像を超える子どもたちが生きること、学ぶことに苦しんでいることを実感しました。
31	それぞれのお立場の概要について詳しく知ることができました。それぞれの事例について、もう少し細かく(うまくいったこと、失敗したことも含めて)教えていただけると、2学期から生かせると思いました。

32	安楽岡さんのお話とても勉強になりました。「子どもを信頼する、任せる、見守る、待つ、支える、伴走する」心がけたいと思います。
33	子どもを信頼し、可能性を大切にあげること、本当にそう思いました。子どもを子どもとしてではなく、一人の人として接し、関わることも大切だと思いました。
34	学びの支援、子どもに自信をつけること、その自信が意欲につながる。自信をつけるには子どもの良さを認め、褒めること。
35	子どもを一人の人間として尊重して対話をしていきたいと思いました。
36	人と人との関わり合いの大切さが学べるフリースクールがあることを初めて知った。本人と保護者を尊重しながら学びの支援をしていきたい。
37	学びの場は一般的な学校だけでなく、広い視野で子どもに合った学びをできる場につなげると良い
38	学びについて様々な視点から貴重なご示唆をいただきました。ガイダンスカウンセラーとして何をしていくべきかを考えられました。
39	学びとは何か、そのレベルが立場によって違うので、お話を聞いていて頭の整理がつかなかった。
40	今の学校現場に大切な子どもと大人の間を
41	本来は学びの意欲はあるということ、それをどう引き出すかが大切なのだと思う。どう支えるか。
42	ケース事例が具体的でわかりやすかった。
43	学びは一つではないこと、人対人で接することで子どもと対話できること。いろいろな学び方があることを知ることができました。
44	中3生2名が在籍しているが、学習しようとするとは帰ってしまったり、来なくなったりするので、家から出して外の世界に触れさせている状態。学ばせるノウハウを得られるかと思って参加した
45	安楽岡さんの子どもたちに対する関わり方がとても参考になりました。
46	子どもの学びをコーディネートしていくのが学校の役割だと思う。

Q3(3) 研修会全体について

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	32	45.1%
	4点	36	50.7%
	3点	3	4.2%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		71	



○意見・感想等

1	石川京子先生、進行役がとても素晴らしいです。今まで何度かパネルディスカッションを聞いていますが、その中でもピカイチでした。(うなずかない人、パネラーを見ない人、たくさんいます)
2	石川京子先生のお話も聞きたかったです。何度も石川先生の講演などに参加させていただいたことがあり、大ファンなので。
3	学校以外のサポート態勢が予想以上に整っていることがわかった。
4	このコロナ禍の中、このような学びの機会を設けて下さりありがとうございました。石川さんのゆったりとした話し方、皆さんを尊重する姿勢、お話を引き出す力など、ファシリテーターのあり方も学ばせていただきました。ありがとうございました。
5	様々な事例をお聞きする中で、今後、子どもや保護者との向き合い方を改めて考えていきたいと思いました。
6	コロナ禍の中でも今日の研修を開催していただきありがとうございました。パネリストの方々の話を聞くことができ、とても身近に感じること、日々そうだな、大切にすべき方向は間違っていなかったなあなど、沢山の感想を持ちました。対話、難しいですね。生徒たちと話をするとき、これと決めずに沢山話しかけます。話題にしたことで生徒が興味を示したこと、二言三言返事があったものを次につなげて、言葉のキャッチボールをできるようになることを目指します。それから深い関係を築いていくようにしています。そして対話です。
7	実際の事例からの考察や先生方のアドバイスなど、大変勉強になりました。
8	子どもの積極性をうばって、消極的にしてしまっているのは何なのか？を考えさせられました。それは学校、教員、カリキュラムなのか？親や地域社会？、子どもの学ぶ意欲を出させるヒントをもらった研修会でした。①出会いの保証、②知識を得られる環境、③実践の場
9	石川先生のコーディネーターすばらしかったです。
10	とても良かったです。対面で聞いたのが良かった。
11	あまり知識のない状態で参加した研修会でしたが、具体的な事例が多かったため、とてもわかりやすかったです。これからの業務の中で取り入れられることもあると思うので、できることから実践していきたいと思いました。
12	”教員の温度差”は現場で感じる場合があります。子どもと向き合う時、支援するとき、指導するとき、壁となることがあります。教員間のコミュニケーションが取りづらい学年、学校であると、子どももよくなっていくと思います。大人たちの役割の一つは、個々の子どもたちに必要な支援を見極めて、次の進路を示してあげることかなと思いました。フレックス高校の先生のお考え、とても参考になりました。ありがとうございました。
13	コーディネーターの先生の質問がとてもよく、聞いてみたいことがたくさん聞けた。
14	現在、情緒学級を担当していて、その先の進路について、特によくわかったような気がする。

15	この研修に参加して、初めて知ることのできた現状がたくさんありました。少しでも現状把握に役立てるよう日々努力している方が多く、私も行動していきたいと改めて思いました。
16	それぞれの現場の様子、取組を聞くことができて良かった。
17	不登校生徒に関わる一人として、どうあるべきかを常に考えています。考えることが大切なのだと改めて思いました。いい学びの場をありがとうございました。
18	「どのような大人になりたいか」を子どもたちに問いかけることも大事ですが、その前に、子どもたち自身が「自分のやりたいこと」に気づき、そのことに向けて行動出来るよう、支援・応援していくことが重要だと感じました。自分のやりたいことを思い切りやってこそ、自分の将来像が描けていくものではないかと思いました。
19	貴重な機会をいただきありがとうございました。前橋からでしたが参加させていただき良かったです。
20	初めて参加させていただきました。なかなか支援の方法が見つからず苦しい日々でしたが、ヒントになるお話がたくさん聞いて大変勉強になりました。持ち帰って参考にさせていただきます。
21	たくさんの事例が提示されてので、その中から今の目の前の子どもたちに合ったことをしてあげたいと思いました。
22	このような研修会を東毛地区で行っていただき、とても参加しやすかったです。また、地域でそれなりに興味深い実践をされている方々からの報告が聞いて面白かったです。構成的には一部と二部を逆にし、最後に鈴木Drからのまとめ(感想)を俯瞰した視点から聞いてみたかったです。
23	今回初めて参加したがとても勉強になった。次回も参加したい。
24	東毛地区は地域資源が表に出てきていないのか、老練しかないのかと思う中で、今回新しい取組をされているシリウスさんを紹介してくれてのは大変有意義でした。
25	様々な立場の方から貴重な意見を聞くことができるよい機会となりました。
26	日々の実践に必要なことをたくさん教えていただいた。
27	石川先生のまとめ、とても良かったです。
28	落ち着いた雰囲気でお話を聞いた。自分自身も参加しているような気になった。
29	”子ども”にスポットがあたった研修で対応する先生方の思いが伝わってきました。実際には子どもだけでなく、保護者との対応にもご苦労があることと思います。学校やフリースクールに来られない子どもたちに対するアプローチなども伺いたいです。今日はありがとうございました。
30	コロナ禍の大変な時にありがとうございました。会場(参加者)からの質問を受け付けるのはコロナ禍のため無理だったのかと思いますが、会場では無理なら研修申込時に受け付けていただき、この会場で答えていただく方法も検討していただければ幸いです。
31	大変勉強になりました。ありがとうございました。
32	学校(教員)のみにこだわらず、経験者(保護者を含む)のお話を取り上げたり、学校が多様な人たちを受け入れる体制が必要かと思った。教育関係者だけでなく親が成長する機会も必要だと思う。
33	実際の事例をもとに話が伺え学びが深まった。他職種の方の話も聞いて良かった。
34	パネルディスカッションだけでなく、講義形式で話を聞けるといいインプットになったかなと思いました。しかし、普段様々な教育の現場にいる人たちが、どのように考えているかを知ることができて良かったです。
35	それぞれの子どもが安心できる居場所を見つけられるよう、いろいろな選択肢を与えてあげることが大切だと感じた。
36	相談室としての役割を見つめ直して、相談指導員として、ガイダンスカウンセラーとして、子どもたち、保護者に向き合いたいです。貴重なお話をいただきありがとうございました。
37	様々な立場の方の見方、感じ方を聞くことができて、とても勉強になりました。
38	多様な時代だからこそ、安全・安心な場がいかに大切か。多様な時代だからこそ、自分をしっかり見つめ、自分や人と対話することを大切にしたい。
39	いろんな先生方の生徒への思いや考え方を具体的に聞くことができて良かった。東毛・中毛地区以外でも研修会を開催して欲しいと思います。
40	大いに共感し、大いに刺激を受けました。ありがとうございました。
41	リモートでの対応があると良かった。席の設定に安心した。中止となる研修会が多かったが、やっと久しぶりに参加できて新鮮だった。
42	会話でなく、対話を重視していこうと思った。

Q4 次回の研修会テーマについての意見・要望

○意見・要望等

1	桐生一高の中学時代に不登校であった子どもたちを受け入れている課程の教員の方(養護教諭を含む)をパネリストに呼んでいただきたいです。
2	幼少期の子育てのあり方
3	子どもの発達障がい、適応障がいについて
4	発達障がい、グレーゾーンの方々への支援。本人・保護者の方にどう気づいていただき、支援していく、または、より適切な場所につなげていくかなど、事例を知りたいです。
5	今増加している”無気力な”な子どもたち、また親たちに対してどのように関わったら良いか、そして、動かすためのきっかけ作りをどのようにすべきなのかを考えられる機会があればありがたいです。
6	来年も具体例をお聞きできるとありがたいです。
7	ZOOMでの参加もできると今後ありがたいです。
8	発達障がいに対する理解、その対応の仕方など
9	情緒学級卒業生の進路について(中学卒業後の)。社会にはどんな支援があるのか、知的の子どもたちは高等支援学校⇒作業所という進路が考えられるが、情緒の子どもたちの進路に関わる支援を知りたい。
10	ゲーム、スマホ依存について
11	今回のような内容で別の事例についても聞いてみたいです
12	実践につなげやすい、具体的な方策などの提示があると良かった
13	先生方の温度差(対応に対する)を縮めるには、不登校の子に厳しく接する先生にどうわかっていただくか
14	次回も邑楽郡内をお願いします
15	これまであまり勉強をしてこなかった分野のお話でした。知らないことをたくさん知ることができ、視野が広がりました
16	東毛地区でのこのような研修会をもっと増やして欲しい。もっといろいろな人に聞いてもらいたい。
17	東毛地域の子どもたちは、足利、佐野、羽生、熊谷など、他県からの入学生も多くいます。県内だけでなく、生徒の通学圏での社会資源についても紹介してもらえるとありがたいです
18	ひきこもり、不登校児・生徒へのチームとしての対応について(管理職のリーダーシップも含めて、福祉・医療との連携も) 支援協議会発行の3冊の資料はとてもありがたいです。たくさん相談機関の紹介や具体例が参考になります
19	今回、千代田町で研修していただき参加しやすかったのも、次回も千代田町民プラザが良いです。
20	不登校の児童生徒に対する親や教員の関わり方、生徒(若者)の自殺の防止について、学校における気になる子に対するの合理的配慮(ユニバーサルデザイン)について
21	貧困家庭の不登校・ひきこもり児童が通える居場所について知りたい(フリースクールは高額で通えないとの声があるため)、貧困家庭向けの学習支援について知りたい
22	家族支援の支援を大切に研修
23	不登校(特に中学生)で外出もできない状態で卒業していく生徒のためにできる支援は何か?(中学校で努力しても進学も就職もできない子は少なくない。そのままひきこもっているの、行政としても関わり方が見つからない)
24	来ている方々と話せる機会があるといいなと思いました
25	東毛は外国籍の児童生徒が日本語が苦手な特学(特別支援学級)に入れたり、不登校なったりしているが、現状の生の声を聞きたい